

(様式2) 平成29年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名
71	川崎市立鷺沼小学校
校長名	三ッ木 純子

- (1)書き方については、19年度～21年度発行の「学校評価報告書」を参照ください。
- (2)評価項目設定については、各学校の実情に応じて取捨選択したり、新たな項目を各学校独自の言葉で作成したりして記入することもできます。
- (3)学校関係者評価を実施した学校は、「学校関係者の評価」に記入してください。
- (4)「今年度のまとめ・次年度へ向けての取組」に、今年度の学校運営のまとめと次年度への具体的な取組を記入してください。また、取組や課題に関連して、教育委員会の施策や事業に対するご意見、あるいはご要望等がございましたら記入してください。

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・よく考え工夫する子ども(考える子) ・思いやりがあり美しさを求める子ども(やさしい子) ・めあてをもってやりぬく子ども(やりぬく子) ・すすんで体をきたえる子ども(たくましい子) 	<p>「笑顔輝き、喜びに満ちた学校」 —笑顔いっぱい、みんな大好き、鷺沼小学校—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人を大切に、安心して過ごせる居場所づくり ・子どもたちの主体的で豊かな学びを育む集団づくり ・子どもたちと共にかかわるすべての人々が喜びにあふれた学校づくり 	<p>人権尊重教育を基盤に、川崎教育プランの「自主・自立」の能力、「共生・協働」の育成など、人間としての在り方生き方となる力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●豊かな心・感動する心を育て、他者を思いやり、自信をもてるような活動を充実させる。 ●学習のめあてを明確にし、「考える力」「判断する力」「表現する力」を育て、子どもたち一人一人の学びを保障する。子どもたちの深い学びを求めため授業力向上をめざし主体的・対話的な学習を促す。 ●子どもたち一人一人が学級内での存在感、有用感を高め、集団づくりに努める。 ●児童支援コーディネーターを核とした教育相談体制の充実を図り、保護者・地域と連携し共に子どもたちを育てる。

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1	(1) 体験を通じた学び(豊かな心・健康な体の育成)	①人とかかわる活動や体験活動、表現活動の充実を図り、感動する心を育てる。	今後も人材記録としてすぐにわかるように整理をしていく。外部講師の活動を充実させていくための予算確保をしていく。
2		②鷺沼キラキラタイムや集会活動を創意工夫し、集団遊びの楽しさやルールづくりを通して体力向上を図る。	来年度も子どもが主体となって、全校で取り組んでいく。委員会活動を充実させ、キラキラタイムや集会活動などを計画的に展開していく。また活動を通して個別級と交流し、理解を深めていく。
3		③発達段階に応じた子どもの自主的な取組を大切に、他学年とのふれあいを意識した活動を行う。	各学年の実態に応じた計画で無理のない実践にし、子どもの自主性を大切にしていく。更に異学年間の交流だけでなく、個別級との交流も全学年で検討していく。
4		④各教科や道徳の時間、キャリア教育等を中心に教育活動全般で道徳教育の充実を図る。	道徳科の取り組みや「道徳ノート」「キャリアノート」の活用と他教科との情報共有が必要。
5		⑤毎日のあいさつや校舎内外の整頓や給食・清掃活動を教職員も共に積極的にを行う。	各学年の活動や行事などを反映させた形であいさつ運動の見直しが必要。日常としてのあいさつ運動に取り組めるよう指導していくことと職員を含めた周囲の大人の意識改革も必要。
6		⑥栽培活動や飼育活動を通して、命の大切さや思いやりの心を育てる。	栽培活動・飼育活動の計画を来年度に引き継いでいく。学年園を明確にして指示系統を統一していく。
7		⑦担任も一緒に行う朝の読書活動を通して読書習慣を形成し、静謐な時間を共有する。	読書の習慣がついてきているので、今後も読書の時間は担任も一緒に過ごすとともに、継続していく。

8	(2)わかる・楽しい授業の構築(確かな学力の育成)	①各教科における思考力・判断力・表現力の向上をめざし、言語活動の充実を図る。	話し合い活動を中心に言語活動の充実を図ってきた。自分の考えや意見を発表することに慣れてきた。友達の発言を聞くとする意識も高まり、自らの意見や考えと比べて、違いや共通点を伝えようとする場面も見られる。	今後も各教科における思考力・判断力・表現力の向上や言語活動の充実を図った授業を展開していく。校内研究の中で培った成果を次年度に活かすようにしていく。
9		②学習のめあてを明確にして、子どもが主体的・対話的な学習に取り組み、課題を追求していく授業展開を工夫する。	問題解決学習を意識し、子どもの知りたいという意欲を引き出すとともに、話し合いを通して、友達の意見との違いや共通点を見出し、より深い理解を目指してきた。また、情報機器の導入、ゲストティーチャーや講師の専門的な学習等を積極的に取り入れ、子どもの意欲を高める授業展開を心がける。	今後も子どもの意欲が引き出せるように、導入の工夫、問題提起、発問、学習の場の設定などを工夫して学習に臨む。
10		③校内研究を推進し、教材研究を深め、授業を公開し、お互いに学び合い、授業力を向上させる。	児童の実態に合わせた「聴く」「話す」を系統立てて指導し、よりよい話し合いや伝え方を研究してきた。学年での研究の成果は得られ、少人数での研究討議もよかった。	学年で成果を振り返り、全体で成果と課題を共有し、次年度に引き継ぐ。
11		④健康安全教育(防災教育)・食育・キャリア教育・情報モラル教育・英語活動等について年間指導計画や学習環境の整備に努める。	栄養士・養護教諭の専門性を活かした学習ができた。命の学習では、子育て支援センターを活用した地域の人材や教材開発にも努めた。キャリア教育は、横断的な学習活動計画の基礎作りを行った。	課題別教育については、教科と絡めながら具体的な指導計画を作成していく。
12		⑤鷺沼小教育活動および各教科の年間指導計画・評価計画を検証する。	年間指導計画については、各教科、学年で適宜修正を入れて取り組んできた。英語活動では、講師と事前打ち合わせを行い授業が充実した。	教科書の内容や流れとの関連は、各教科部会で確認や見直しを進めていく。生活科や総合的な学習の時間の地域教材については、きちんと文書化し、引き継ぐようにする。道徳科の授業評価を行う。
13		⑥校内研修を充実させ、校外研究・研修会等に積極的に参加する。	校外での研究・研修等の情報を共有し、日々の教育活動に役立てた。ちょこっとトライ研修については、時間に余裕がなかった。	今後も何について研修したいのかアンケートを取り、研修を企画していく。ちょこっとトライ研修を企画し積極的に取り入れていく。
14	(3)特色ある学年・学級経営(子どもの居場所と集団づくり)	①学年全員の名前を覚え、意識して声をかけ、学年全体で子どもたちにかかわる。	学年会で児童理解の時間を積極的に設け、共通理解シートを活用した。交換授業(算数)や学級解体(総合)などを取り入れることで、学年全体で児童を理解する意識が深まった。	今後も、共通理解シートを活用し、合同学習やクラス解体、交換授業、コース別学習など多様な形態をとることで学年・学校全体での児童理解を進めていく。
15		②子ども一人一人が存在感、有用感を高めるよう特別活動の充実を図り、主体性を育てる。	さまざまな活動場面で子どもたちが自主的に動いていこうとする意識が見られた。委員会やクラブ活動の紹介掲示板は、活動を伝えるために有効だったが、内容の更新を積極的に行っていきたい。登下校や遊びでのトラブルが多かった。	掲示板については、前後期での内容更新やクラブ活動の紹介等充実させていく。登下校や放課後遊びのルールやマナーを指導していく。
16		③人権尊重教育や共生・共育プログラムを通して、自主性・自律性、自己理解・他者理解等の育成を図り、望ましい集団づくりを行う。	ふわふわ言葉やちくちく言葉を意識させたり、コミュニケーション能力のスキルを行ったりして、人権教育に取り組んでいるが、友達とのトラブルが多い。	自分自身を振り返るスキルやコミュニケーション能力育成の場を意図的に作り、自己理解や他者理解に努めていく。
17		④望ましい学習態度、学習習慣の形成、学習規律の確保を図る。	鷺沼小ルールブックで確認しながら、学年会等で情報交換し、共通理解して指導を行ってきた。校内ではルールブックの内容が浸透してきているが、登下校の仕方がまだ改善されていない。(広がって歩く・坂道を走る・ポケットに手を入れて歩く・あいさつをしない)	鷺沼小ルールブックの内容の吟味や共通理解を年度当初に確認し、活用していく。保護者への周知徹底を、便りのみならず年度当初の学年懇談会などでも周知していく。
18		⑤児童理解・児童指導、支援教育等の充実にも努める。	児童支援コーディネーターを中心に、学校全体で情報を共有する機会が増え、話しやすく相談しやすい環境を整えてきた。支援が必要な子どもの居場所や学習室、国際学習室を設置した。教育活動サポーターの見守りなどの人員確保は難しい。	支援が必要な子どもへの適切な対応を今後も充実させていきたい。教育サポーターや学生ボランティアが配置できるよう、人員・予算の確保を検討していく。
20		⑥いじめ・不登校の未然防止に努め、全教職員での声かけや居場所づくりを行い、チームで対応する。	鷺沼小学校いじめ防止基本方針に則り、児童支援コーディネーターを中心に、学校体制を確立し、相談体制整備に努め、教職員の共通理解を図った。子どもたちからの話を丁寧に聞くとともに、学年での情報共有を行い、早期解決に努めた。	来年度も、担任、担任以外の全職員が共通理解のもと、いじめや不登校、問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努め、全校でのチーム支援を行っていく。必要に応じて校内委員会を開くようにしていく。

21	(4)共に歩み、 信頼される学校 (開かれた学校)	①子どもや保護者が話しやすいように心がけ、全教職員で連携して、教育相談体制の充実を図る。	教育相談日を設け、必要に応じてこまめに迅速に教育相談を行ってきた。面談では児童支援コーディネーターが同席することにより、より説得力のある説明や客観的な視点からのアドバイスができた。また、必要な専門機関を紹介したり専門家とつなげたりできた。課題を抱え込まず、学年や管理職に報・連・相することを継続する。	来年度も児童支援コーディネーターや主任などと連携して教育相談を行い、チーム支援の充実を図る。教育相談室は、来年度も確保する。
22		②安心・安全な学校生活を送れるように危機管理意識をもって、防災・防犯、緊急対応等を統合した環境整備を行う。	いろいろな状況を想定し、防災訓練を行ってきた。社会科の学習とも関連付けて、防災教育を推進した。登下校中の歩き方については、引き続き定期的な指導が必要である。	防災訓練だけでなく、地域のパトロールや安全点検などを関連付け、学校全体の防災、防犯の意識を高めていく。校庭での保護者の引き渡し訓練も行いたい。地震体験車の予約申し込みを行う。
23		③保護者・地域の方の協力や支援を得て、広く教育ボランティアやゲストティーチャーを募り、教育活動を充実させる。	多くの方々にゲストティーチャーや出前授業としてご協力いただき、充実した学習を行っている。また、図書ボランティアだけでなく、PTAの清掃のお手伝い、生活科・かけ算九九・総合的な学習や家庭科の実習等多くの教育ボランティアの協力を得られた。今後も計画的に教育ボランティアをお願いし、教育活動を充実させたい。	ゲストティーチャー、地域、保護者ボランティア等協力者の一覧を作成し、連絡・引継ぎがスムーズに行うようにする。
24		④校務分掌と連動する学校評価システムを充実させ、学校改善に生かす。	校務分掌の見直しを行い、学校経営の具体的な取組と連動するように改善したい。学校報告会を土曜学習参観の前に行い、より多くの保護者に参加してもらえるようにした。	校務分掌の見直しを行い、4つの部会を中心に役割分担し、それぞれが連携するように改善していきたい。
25		⑤教育活動を公開し、学校ホームページ、学校・学年・学級だより、懇談会等の内容の充実にも努め、積極的に情報の発信を行う。	学校ホームページをリニューアルした。平成30年2月現在8331件のアクセス数がある。	学校の情報を発信する手段の一つとしてホームページの更新を行う。(各学年月2回のHP更新をベースに)職員一人一人がセキュリティ、個人情報等への意識をより高めていくようにしていく。
26		⑥小中連携教育推進協議会の取組を充実させ、近隣小学校、中学校との連携を深める。	有馬中の合唱交流や体験入学を通して、中学校生活の見通しをもつことができたり、有馬中学校区の小中学生と交流することができた。	今後も児童生徒の交流や教職員の情報交換を行い、連携を深めたい。
27		⑦幼稚園や保育園からのスムーズな移行を行うために幼保小連携を推進する。	幼稚園、保育園の先生方との話をする機会がもてよかった。幼稚園と保育園との交流では、指導計画に則りスムーズに実施できた。1年生の子どもたちが学んだことを伝える経験ができ、成長につながった。入学説明会では、就学する子どもに体験入学的な取り組みを行った。	今後も幼保小との情報交換を行い、スタートカリキュラムを活用していきたい。幼稚園と保育園との交流は今後も実施していく。入学説明会等では就学児たちの参観や体験活動を行いながら、より多くの教職員で子どもの実態把握に努めていく。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習については、子どもの興味・関心を示す種を作ることになり、有効な学習である。今後も、プロから学ぶ機会を計画し、いろいろな体験を重ね、出会いの機会を増やして欲しい。 ・読書の習慣化は大切であり、読書が好きという子どもも多いほうではないか。ただ、図書館に行く回数が少ないというのは、公立図書館に行きにくいからか。学校でも図書室に来る子どもが固定しているようだが、好きな本や単行本は自宅にあるという子どももいる。読み聞かせは、ぜひ続けてほしい。 ・思考力・判断力・表現力の向上をめざしていることは良いと思う。特に、これからはプレゼンテーション能力(人に発表する能力)は大切になる。小さいときから取り組んでほしい。 ・めあてや目標をきちんと持ち、教育活動に取り組むことが大事である。教師の意識を見直すことも必要。授業が楽しいだけで終わってしまったら何にもならない。指導と評価の一体化を見直し、地道に教育活動に取り組めば成果は必ず出る。 ・あいさつでも、登下校の仕方でも、高い意識が必要である。大人も一緒に範を示していくべきである。 ・自己理解・他者理解は大切であり、友達同士で考える時間を大事にしていきたい。 ・学校内の連携(児童支援コーディネーターと管理職、保健室との連携、教職員同士の連携等)、学校外の連携(教育委員会、区役所、施設、地域等)を深め、協働に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習は、子どもたちにとって有効であり魅力的であり、意欲的に取り組んでいた。特に人とかかわる学習は充実していた。今後も、プロの講師や外部講師を要請し、授業に取り入れていく。 ・キャリア在り方生き方教育では、今後も保護者ボランティアの協力のもと、仕事に対する夢のある授業を展開していく。 ・朝の読書の時間は読書の習慣を形成する上でも効果が現れている。ただ、自由読書なので、歴史まんがやゲームの攻略本、図鑑等を選択する子どもも出てきた。ジャンルを決めて、物語や長文に親しむように促していきたい。 ・アンケートからも読書が好きという子どもも多く見られる。図書室を効果的に利用しながら、本の選択肢を増やしていきたい。図書ボランティアの協力を得て、読み聞かせは継続していきたい。 ・思考力・判断力・表現力の向上をめざし、問題解決学習や話し合い活動を中心に授業展開を行ってきた。相手意識を持ち、伝えたいことをわかりやすく発表する場を意図的に設定してきた。校内研究でも、「聴く」「話す」学習を国語科を核に行ってきた。これからも、話し合いや発表する機会を作り、表現する力を意識して指導していくよう授業改善を図ってきたい。 ・子どもたちにわかりやすい授業を提供できるよう、明確な目標設定や活動内容、魅力的な授業提供ができるよう研修を行い、指導力向上に努める。また、子どもたちが安心して学校生活ができるように、一人一人へ言葉をかけたり話をきいたり、きめ細かい支援を実践していく。 ・挨拶運動や歩き方のマナー、学習規律など、子ども自身が自主的に活動できるように支援しているが、登下校や放課後遊びなど、大人がいないところでは、なかなかルールやマナーを守ることが難しい。引き続き意識するように働きかけていく。 ・コミュニケーション能力の育成の場を作り、人権教育に取り組んでいるが、相手を思いやる態度や言葉遣いをさらに意識するように働きかけていく。 ・児童支援コーディネーターを核に、児童指導や教育相談の充実に努めた。子どもへの声かけや見守り、居場所づくりなどを行い、学校全体で支援してきた。今後も保護者やPTA、地域と連携し、共通理解を図りながら子どもたちを育てていくようにする。

|